

## ♥内藤ルネ読み物企画 vol.1「ルネガール誕生」♥

今回のRUNE NEWSをスタートに、改めて内藤ルネの半生を全6回に渡りご案内したいと思います。

1932年に愛知県岡崎市で誕生した内藤ルネは、イラストレーター、人形作家、デザイナー、エッセイストなど幅広い分野で活躍をしたマルチクリエイターでした。

1950年～1960年代にかけて、圧倒的な人気を博した少女雑誌「ジュニアそれいゆ」（ひまわり社）において表紙と挿絵を担当して以降、数々の作品を手掛け、大ブレイクしました。後にルネはいくつもの功績から「Roots of Kawaii」と称されるようになりました。

ルネは、少年時代より憧れの存在であった中原淳一 主宰のひまわり社に1951年に入社、書生として働き1953年「それいゆジュニア号」においてごく小さな挿絵カットが採用され、「内藤瑠根」としてデビューしました。その後「ルネ」とカタカナ表記を改めましたが、これは、彼が大好きであったフランスの映画監督「ルネ・クレマン」をリスペクトしていたことによるものです。

1954年に創刊され圧倒的な人気雑誌であった「ジュニアそれいゆ」において、年々ルネが担当するカットは、目次、連載などと徐々に増えていき、やがては同誌を代表する作家のひとりに成長しました。



『ジュニアそれいゆ』に掲載されたルネの初期作品。

現在「Kawaii」という言葉は日本だけではなく、世界中で愛され、人々に使われています。

そもそも「かわいい」という日本語のルーツは古い日本語で、諸説ありますが語源は「かほゆかし」とも言われ、その昔は「幼稚な」「ちっぽけな」というややネガティブな意味で使われていたとのこと。しかしルネは、「小さくて子供っぽい」ならば、それらは「可愛い=pretty cuteではないか」と解し、様々なデザインクリエイティブによって、具現化したのです。そして今や、この言葉は「Kawaii」と英字表現され、世界共通語にまで進化したのです。

誰も花や小鳥を見れば「カワイイ」という感情を抱きます。しかしルネは野菜や、昆虫、食器等にまで、それらが持つ「カワイイ」に着目したのです。これこそが「かわいい文化の生みの親」とも称される彼の「気付き」であると考えます。

こうしてその言葉の持つ意味さえも自由に広げ、表現し続けたのがルネであり、日本のガールズポップカルチャーを牽引しました。生涯彼は、少女画、ファンシーグッズ、インテリアなど、多くのものに向けて独自の視点から“可愛いカルチャー”を創造し、発表し続けたのです。



1959年～60年にかけて『ジュニアそれいゆ』表紙を担当。大きな目、髪型、ファッション、すべてにおいてルネガールは少女たちの憧れとなりました。



当時、ルネが描く絵は、今まで見たことが無いようなひよろ長い首に抜群のスタイルが特徴的で、大きな瞳に長いまつ毛など、どれも大変キツクでした。

また、斬新なヘアスタイルや、ヴィヴィッドなカラーで表現された革新的なファッションスタイリングは、どれもおしゃれで当時の少女たちから大人気を獲得しました。ルネは、洋雑誌「アメリカンヴォーグ」「セブンティーン」などを愛読し、女優のオードリー・ヘップバーンやレスリー・キャロンやモデルなどを愛でて、自身のクリエイティブの参考にし今までの日本の美人画等では表現されなかった「まったく新しい美少女=ルネガール」を創造したのです。

今や世界中でポピュラーになり、アニメやゲーム等で愛されている美少女キャラクターのルーツこそが「ルネガール」であるとも言えるのです。次回はマルチクリエイターとしての活躍をご紹介します。

